

- 151 京國歸何日 京国に帰らんこと何れの日ぞ  
 152 故園來幾年 故園に来ること幾年ぞ  
 153 却尋初營仕 却って尋ぬ初めて仕を營みしことを  
 154 追計昔鑽堅 追ひて計ふ昔堅きを鑽りしことを  
 155 射每占正鵠 射ては毎に正鵠を占む  
 156 烹寧壞小鮮 烹ては寧ぞ小鮮を壊らんや  
 157 東堂一枝折 東堂一枝折る  
 158 南海百城專 南海百城専らにす  
 159 祖業儒林聳 祖業儒林聳く  
 160 州巧吏部銓 州功吏部銓る

【十七段】

この十句では、分不相応に、矢継ぎ早に、重責の任を与えられ榮進を重ねていったことを詠う。そして細心の意を用いて帝の補佐をして来たと、その心情を吐露する。

- 161 光榮頻照耀 光榮は頻に照耀す  
 162 組珮競榮纏 組珮は競ひて榮纏す  
 163 責重千鈞石 責は千鈞の石よりも重し  
 164 臨深万仞淵 臨むことは万仞の淵よりも深し